

会報  
34号



函館の歴史的風土を守る会会報  
No.34 1990.2.10  
発行所 函館の歴史的風土を守る会  
事務局 函館市五稜郭町43-9  
五稜郭タワー株式会社内  
電話 (0138)51-4785  
印刷所 双葉印刷 電話 53-7730番

## 北海道まちづくり功労者、団体の部で 第一回北海道知事賞を受賞

10月7日市長への謝辞と受賞の喜びの報告

感謝状

函館の歴史的風土を守る会様

貴団体は函館市の歴史的環境を保存するため啓蒙活動に努められ市民レベルの個性豊かなまちづくりの推進に多大の貢献をされましたその功績は誠に顕著でありますのでここに深く感謝の意を表します。

平成元年十月四日  
北海道知事 横路孝弘



(道新提供)

受賞式は平成元年10月4日、札幌ポールスターホールに道内85市町村より約200余名の関係者参集の上行われた。団体の部で当会が、個人とし占冠村村長、観音信則民が受賞し、その後夫々が謝辞と運動の経緯とうにつき発表した。今回の受賞は十有余年の運動の成果であるが、木戸浦市長推薦が大きくあずかって力となった。

表彰式終了後、第2回全道景観会議が開かれ、各地区の事例発表がなされた。かってOECD(経済協力

開発機構)による日本の環境政策を調査する国際会議が日本で開かれたが、この時OECDの日本政府へ対する指摘は、市民(住民)生活に本質的な価値をもつ町なみ、自然環境、都市景観等の快適な環境、即ちアメニティーを守る戦がなされていない、とのことであった。あの時から10余年後の今日、漸く北海道でも自治体レベルでアメニティーが政策として真剣に討議される時代を迎えたことを実感し、よろこばしくも感慨深いものがあった。(田尻 聡子 記)



## 「函館のまちなみ」発刊を記念し、併せて

### 北海道まちづくり功労者受賞を祝う会を開催

平成元年11月17日、安井助役他、ご来賓の皆様から激励と心温まるご祝辞をいただき会員共々と喜びを分かちあった。当席上、浜島会長より、故川嶋龍司先生と前会長 今田光夫先生へ感謝状が贈られ両先生の功績をたたえた。



故川嶋先生への感謝状を  
お受けくださった川嶋夫人

感謝状  
川嶋龍司様

昭和五十三年四月二十二日当会  
発足以来運営委員及び副会長と  
して他界される寸前まで函館の  
町並みと文化財保存・保護のた  
めたゆまざる情熱を以つて市民  
の啓蒙につくされました  
平成元年十月四日当会は北海道  
知事より第一回北海道まちづく  
り功労者として表彰の栄に浴し  
ましたこれ偏えに先生の先駆的  
な業績にあづかるところ真に大  
であります  
本日「函館のまちなみ」発刊記  
念に当たり改めて先生のご功績  
を讃え感謝の意を表します  
平成元年十一月十七日

函館の歴史的風土を守る会  
会長 浜島国四郎

感謝状  
今田光夫様

昭和五十三年四月二十二日当会  
発足以来十有余年会長として函  
館の町並みと文化財の保存・保  
護運動の先頭に立たれ文字通り  
新しい時代をきり拓いてくださ  
いました  
平成元年十月四日当会は北海道  
知事より第一回北海道まちづく  
り功労者として表彰の栄に浴し  
ましたこれ偏えに先生の長年に  
亘るご尽力の賜ものであります  
本日「函館のまちなみ」発刊記  
念に当たりご功績を讃え感謝の  
意を表します  
平成元年十一月十七日

函館の歴史的風土を守る会  
会長 浜島国四郎

## 「函館のまちなみ」—編集を終えて

落合治彦

歴風会の10周年記念誌の編集が話題にのぼって  
から、少し空白の時間が流れていたような気がした  
……そんなある日の会合で、「何かお手伝いがある  
れば…」とオズオズと申し出た記憶がある。その  
「お手伝い」が委員長と言うことになってしまっ  
た。私が「お手伝い」を申し出た理由の一つに、  
「脈々盛岡の街づくり」—佐藤優著・在研究所・  
S59—からかってない程の強烈なインパクトを受  
け、「記念誌」には是非こんな本が欲しいと言う  
気持が働いていたこと、具体的なサンプルとして  
「町並み」—全国町並み保存会連盟機関誌創刊号  
—が「函館のまちなみ」と頭の中で既に交錯して  
いたことである。海のものとも山のものとも一向  
にまとまらない編集作業も溶かし込んだコンクリ  
ートが徐々に固まりかけるように、題名・内容・  
体裁・予算が決まり、原稿依頼・業者との交渉な  
どが順調に組み立てられたり、逆に戻ったりする  
あの気持の張りつめたときめきは、実際に製作に

関与した者だけが味わうことの出来る醍醐味では  
なからうか。しかし、この醍醐味は8ヶ所のミス  
プリント(正誤表)でふっとんでしまった。  
あとほんの少しの努力と思えば慚愧に堪えず責任  
を痛感している。

「坂のまち点描」を担当した清野会員がスケッ  
チを終えた時に、最早やモデルになった二軒の建  
造物が取壊された。そのめまぐるしいスピード  
に驚いていた。

「景観条例」の一日も早い浸透を願わずにはいら  
れない。

末筆乍ら、当会の創立に多大な功績をのこし、  
口絵と「所感」で本誌の巻頭を飾って下さった橋  
本三郎先生が昨年の12月30日突然ご逝去されたこ  
とは悔まれてならない。「函館を愛しているなら  
ば、勉強して努力せよ!!」と言う「所感」の結び  
の言葉を生前の崇高な先生の「町なみ」保存への  
遺言として、私は敬虔に受けとめている。

# 1990年を迎えて

会長 浜島 国四郎

昨年は長年の念願であった、歴風会10年の歩みを刻んだ「函館のまちなみ」を発刊した。ご執筆下さった方々、そして多くの人々の応援と好意に支えられてできました。改めて御礼申します。編集の皆さん お疲れさまでした。発刊以来各方面から嬉しいお賞めもいただきました。

加えて昨年は、北海道まちづくり功労者受賞の栄によくしました。これ、ひとえに会員の皆さまはじめ、多くの方々のご協力とご支援の賜物と感謝しています。

しかし反面、数々の悲しいこともありました。その一つは、曾って歴風文化賞もおおくりし長年市民に親まれてきた大町郵便局が突然姿を消したことです。私共の胸の中を冷たく悲しい風が吹き抜けてゆく様でした。加えて西部地区にマンションの乱立を許るし、函館の顔が大きな危機に直面した年でもありました。

12月末、歴風会創立当初、大きな役割を果され、又10年誌「函館のまちなみ」発刊の折には心よく函館の

風景画と一文をお寄せくださった橋本三郎先生が突然他界されました。心よりご冥福をお祈りします。

さて本年は昨年に引き続き、北海道に於ける唯一つ残こされた大正期の木造校舎である貴重な谷地頭小学校の一部保存かたど、その活用を市の文化行政の一つとして取りあげて頂く運動を進めてゆきます。保存、活用をすすめる会は歴風会をはじめ市内の15の市民グループにより構成されています。谷地頭小学校問題については新聞とうでご承知のことと思いますが今後のご支援を切にお願いします。函館市内からは勿論のこと道内外より力づよい協力のメッセージも届いています。

国際化、情報化、ハイテクの時代と言われ、将又あしたは何がおきるか予測しがたい動乱の年になるやも知れません。しかし私共は先人の心と仕事を大切に受け継ぎ、守り、創造し育て、より健康で明るい快適な町づくりを進めてゆかなければなりません。ともあれ1990年は一段と厳しく市の景観条例の真価が問われる年です。会として何ができ、何をしてゆかなければならないのか運動の質も問われる年です。皆さんの一層の協力を期待いたします。

## ＝「はこだて町並保存の礎」

函館赤光社美術協会 代表 故橋本三郎画伯の業績＝

一人の画伯の聡叡さが人口30万中都市の施政の方向に大きな転換をもたらしたことがあって日本にあっただろうか。

ここに、画家として失われゆく原風景への混迷と別離へ対して内在する烈しい憤りをかいまみることのできる、昭和52年に書かれた名文がある。

かって自らの芸術的感性が形成されたであろう空間

が瓦解する惜別に耐えられなかった熱い思いが明確に伝わってくる文でもあり、今でこそ通説となっている町並保存の原則が当時の画伯の感性の中で明確に位置づけられていたという驚きもうかがえる文でもある。

函館歴史的風土を守る会結成の魁となった、橋本三郎画伯の業績をしのびながら、全文を掲載し、冥福を祈りたいと考えている。

(文責 清野恒夫)

矢野函館市長 殿

此のような形で一般市民や我々画家がなすべきことでないと思得ているがやむを得ず進言におよんだことを残念なことだと思つている。

旧渡島支庁舎の道移管反対の理由

同舎は由緒ある地にあり、函館最古のルネッサンス様式(円柱)建築物であること。同舎は奉行所の跡にあって基坂一番地にあり御殿坂とも云い、その上には館跡があります。奉行所は一時五稜郭へ移ったが、

明治元年 北海道統治の開拓使出張所がおかれ道最古の役所である。

明治11年 レンガ書庫のある建物が建立、明治40年の大火にレンガ書庫を残し焼失する。

明治42年 現在の旧渡島支庁舎(開拓使)を建立。

明治42年9月公会堂より古い建物で最古の円柱式であり、同様式は2ヶよりない大切な建物である。

市長はかねがね函館の文化財(建造物)は函館市民のなによりも大切なものであると書物にも書いておられるが、同庁舎の札幌移管を同意されるならば言行の矛盾を指摘されるであります。

大切な文化財を道庁に移管し明治村へ残すのも一案と思いますが、文化財は、その地においてこそ意義もあり、又、その異国的ふんいきを感じさせるものである。

市民の心のよりどころである由緒ある文化財を子孫へ残す意義と理事者の考える観光立市の構想の大切な建築物を深く考えることもなく明治村へ移し我々の道費を二重に費やす愚かしさは本末転倒に道費を費やすと云うことになります。

道にその予算があるのであるから、その半分でも市理事が予算をいただくよう御努力を願えないものかと思つます。

注：明治村設立の案と、明治村の景観はまるでマンガを見るようなものだとの評あり、遊園地のようなものだそうです。およそ歴史的な文化財である建造物のふんいきはその立地背後の風景と共にし出されるものであります。

最早、函館に異国的なふんいきは少なくなり、さらに、又、大切なルネッサンス様式の一つがなくなることは一市民として堪えがたいものがあり、黙視することが出来ません。

基坂一帯と同庁舎は古きよき函館の中心に当たり、異国的な風情をもつ函館の大切な顔なのであつて同庁舎はいわば、鼻の存在であることを留意していただきたいと思つます。注：松前町では民家を取り壊し城跡を復元する程町民に熱意のある事を驚いている次第です。

近代美術館は至急予算を計上して旧大陸銀行を同館設立調査審議室にする様、早急に理事者が運動して実現する様お願いする次第です。

赤光社美術協会  
代表 橋本三郎

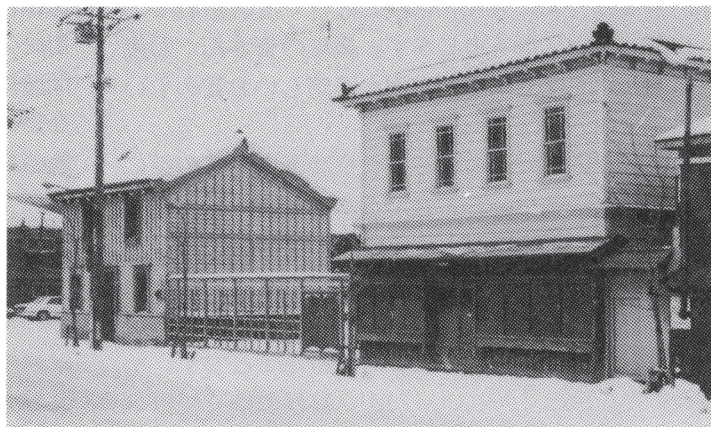
1月26日函館の町並みを美しくする新春チャリティーパーティを開催、  
第7回歴風文化賞の発表と授与式を行いました。

保存建築物として野口梅吉商店

野口水産株式会社 野口 梅吉 殿

貴邸は、大正2年に上下和洋折衷の様式で建てられた今日に伝える優れた歴史的建築物であります。

長年に亘り維持・保全に尽くされ、函館市西部地区の町並みに潤いを与えています。その努力に謹んで感謝の意を表します。



☆明治から大正の初期にかけて、函館が海運や北洋で隆盛をきわめていた時、西浜港に蔵を持つ多くの町屋が建てられた。この建物も大正2年、上下和洋折衷の様式で建てられる。一階部分に事務所を有する商業建築である。一昨年痛みの激しくなった母屋の外観を建設当時に甦らせ、

昨年は蔵をみごとに修復しこの辻のランドマークになる建物として保存されています。

薄青い下見板張りの壁に、縦長窓や一階のベンガラ格子の色対比は清楚な雰囲気を出しています。西部の歴史的な町並みに潤いを与えています。

実行委員長あいさつ

赤 城 泰

歴風会主催第12回新春チャリティーパーティの実行委員長を仰せつかり、全くその任でないことを承知しつつも、お断りし切れなくて、ついで1990年1月26日というその日が到来し、そしてあっというまに終わってしまいました。何のお役にも立てませんでした。浜島歴風会会長と全スタッフはこの道のベテランの方々なので、実行委員長はただニコニコしながらそこに居ればよいという大変恵まれたお役で、私自身当夜のパーティを十分に楽しませて頂きたいです。

さて、函館が紹介されるときよく用いられる語に、歴史、ロマン、夢があります。そして、それらの語が厳密に何を意味するかは余り問題でなく、ただそこにかもし出される雰囲気や印象が伝わりさえすればよしとされるようです。何でも古ければ歴史、漠然とではあるがそこに実在するように感じられる良い気分はロマン、ピントを無限大に合わせたような眼差しで文字通り夢見心地で見るものは夢、という具合にです。そして当市を訪れ

た観光客にとっては、それでよいのです。

私どもの歴風会は、しかし、そこに留まらず、むしろ具体的に人間が生きて歩んだ足跡とか、具体的な一つひとつの建物や街角や急坂や樹木や町並み等にピントをできるだけ正確に合わせ、情動的と同時に知的な探求心を働かそうと努力する、と言えるのではないのでしょうか。過去7回の歴風文化賞の対象になった実際の建物や市民活動や風景は、まさにそうした観点から選ばれたものと、私は推測いたします。

それぞれの家屋や建造物の所有者、そこに現に住んでいる人々、それが他の類似のものと共に一つの町並みを形成する建物群、それらの保全に協力すべき行政、そして歴風会の如き市民運動……これらが一体となって初めて歴史が確認され、ロマンが醸し出され、夢がかき立てられるのであります。

歴風会の益々のご発展を祈念する次第です。

(遺愛学院学院長)

パスト・イン・フューチャー Past in Future  
 =未来における過去= その現在をじっくり見すえながらとりくむ

再生保存建築物として金森美術館



金森商船株式会社 渡邊 恒三郎 殿

明治44年に金森船具店として建てられた煉瓦造洋風建築は、今日に伝える貴重な歴史的建築物であります。

このたび、クリスタル芸術の世界的遺産バカラコレクションを展示する「金森美術館」として甦りました。

これは、歴史的な町並み保存の推進に与えた影響は大きく、その努力に謹んで敬意を表します。

☆明治44年、北海道の玄関口であった東浜棧橋に面して、ルネッサンス風の重厚なデザインの金森船具店が建てられました。

第二次大戦から現在まで北海道船用品株式会社として使用されてきましたが、このたび金森商船株式会社社長渡辺氏は、この建物の創建当時における先代の意欲に思いを馳せ、外国文化華やかかなりしころにリモデルングをし甦らせました。

作品はクリスタル芸術の世界的遺産とも言えるバカラ・ミュージアム所蔵の数々の中から、選びに選び抜いた復刻23点であり、世界にも限られた数しか存在しない貴重なコレクションであります。展示ばかりでなく、ショッピングもできるよう計画されています。歴史のある建物に息吹を与え、世界的にも高い評価を受ける文化遺産を、収集展示し、市民に新しい感性を育ててくれました。町並への深い情熱と努力には、敬意を表します。

歴史的風土の形成に寄与する団体として  
 市民創作「函館野外劇」の会

市民創作「函館野外劇」の会 殿

1988年7月22日灼熱の太陽が沈み夕闇があたりを染める頃、史跡五稜郭に歴史的な感動的一幕が開かれた。

「市民一人ひとりが夢を演じる冒険者」をスローガンに、市民創作野外劇「五稜星よ永遠に」の初演となる日である。

市民の文化活動の潜在力を引きだし、市民と街に夢とロマンを与られた影響は大きく、その情熱と努力に謹んで敬意を表します。

☆グロート神父を始め、実行委員の情熱が今ここに大きな花を咲かせ、実をみのらせようとしています。

野外劇上演のスプリングボードとして最も大きな力を果たしたのは、グロート神父の情熱・エネルギーはもち論であります。国際交流で培われていた日仏協会の協力であり、かつ又、実行力をもって活動する五稜郭祭実行委員会の人々である。その後蝦夷共和国などの人々がこれに参加したのを契機に、多くの市民が協力応援してきた。

昭和61年、グロート神父はじめ、おもだった人々がフランス・ル・ピディフの野外劇を視察し、深い感動を受ける。かくして函館・五稜郭上演の夢が高まる。

昭和62年1月歴風会のチャリティパーティで、グロート神父がル・ピディフの野外劇を紹介され、函館における野外劇

を語った。その後準備会を設立、5月に市民創作「函館野外劇」の会が誕生する。

市民参加による「市民一人ひとりが夢を演じる冒険者」のスローガンのもと、会員を募集、約1,000名の手作りスタッフが構成される。

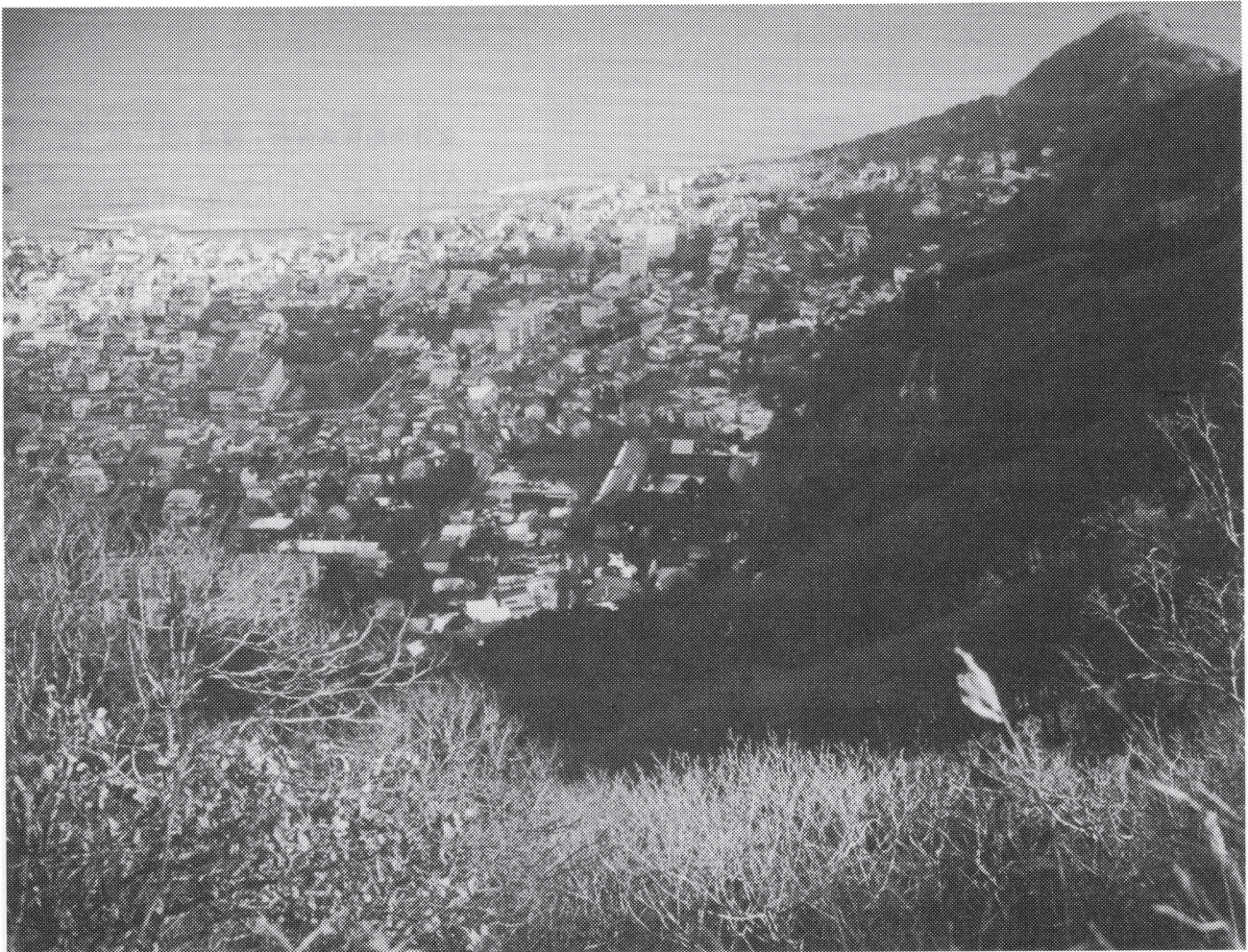
昭和63年7月22日、「五稜星よ永遠に」の歴史的な一幕が夏の夜の「夢とロマン」の一大ページントを贈ってくれた。

今年は早くも3回目を迎える。円熟期にむかってこの会は、郷土史話伝講会を開催している、これは知られざる歴史と風土を市民とともに学習をしながら、野外劇の工夫、改良への資としている。

市民文化活動の潜在力を引きだし、街に大きな活力を与えた知恵とエネルギーに敬意を表します。

## 函館がはこだてである存在のあかし

### 函館の原風景として「谷地頭風情」



(日下部忠一氏撮影)

## — 宣 言 文 —

### 原風景 谷地頭風情

谷地の頭に位置するこの地は早くから拓かれ発展してきたところです。深い森に抱かれた函館八幡宮とともに、温泉の湧く景勝の地として、永く人々に親しまれてきました。太古の面影を秘め、先人たちの情熱と努力を偲ばせる、歴史性と風土性を持った臥牛の山裾に広がる原風景こそ、歴風文化賞に値するものとして、ここに宣言します。

☆臥牛の山裾に広がるこの地は、谷地の森として親しまれてきた。

ここには、寛政11年、先の尖った土器が発見され、その文様は貝殻があしらってあった。先史民族が住んでいた証である。

安政年間箱館が開港されると、奉行はこの地に紙を造る紙座、瀬戸物を造る瀬戸座、箱館通宝を造る銭座を起し事業をなす。明治5年頃になると、英国領事ユースデンと初代渡辺熊四郎は、函館に公園を造る運動を起す。

明治7年には開拓使中判官杉浦誠が政府に正式にもうして、横浜に続いて二番目の公園事業がなされる。

明治10年には、博物館が建設され、翌年5月に開館、その年の11月に函館公園が西洋式公園として開園される。

この公園は時任為基が率先して造成するが、市民あげてこの事業にたずさわった。

この地に多くの人々が集まり、又明治16年より温泉が湧きでて別荘地として発展する歴史性と風土性を持ったこの山裾に広がる原風景こそ、歴風文化賞に値するものであります。

耳と目

歴風会(函館の歴史的風土を守る会)が、昭和53年4月発足以来10年余を記念して、立派な記念誌“函館のまちなみ”を8月1日付で発刊した。多数の貴重な写真が載っており一部1千円とは安く感じるが、何よりも、多くの建物写真を見せつけられると、失われた建物が何としてもしても惜しいという想いが募ってくる。感傷的なものかも知れないが、それでも歴史ある建物は消えつつあるのは淋しい▶同誌によると、旧函館税関は、明治44年に建設され、昭和48年に取壊されている。月に一度は大町の税関庁舎に通っていたことがあり、その歴史を感じさせる建物は、正に港マチ函館のシンボルと思われた。その建物が簡単に取壊されたが、当時の記憶とし

ては、何の反応(反対も賛成も、各種の意見も)もなかったような気がする▶函館というのはそんなマチだ。話題になったり、流行ったりすると飛びつくが…という意見には反対で、というよりも当時はまだまだ古い建物を守る…という風潮は少なく、オイルショックの中で高成長へのステップを歩み、守り、保全するよりは、壊し、そして造るというのが主流の時代であったといえる▶建物が観光資源であったり、マチの歴史が観光イメージを創ったり、というのは物余り時代に入ってからだ。地裁庁舎も今はなく、旧給食センターや本間合名跡にもマンションが建設されている▶「函館のまちなみ」という書は、何とも楽しく、そして悲し気な函館の歴史を感じさせる快書である。

平成元年8月14日第4789号日刊政経情報より転載

谷地頭小学校校舎の保存活用をすすめる運動の経過について

谷地頭小学校校舎の保存活用をすすめる会 代表 富岡由夫

昨年の6月に会が発足してから8ヶ月。この間、地元での説明会、署名運動、市議会への対応など慌しく過してきた。今、全体的にふりかへて見ると少しずつではあるが前進している様に思う。昨年、12月の市議会で谷地頭小の件は継続審議になった。このことは取壊し予算の計上が一時的に見送られたことを意味する。以下、これまでの運動の経過についてまとめて御報告する。

1. 説明会、講演会、探索会などの実施

- (1) 谷地頭小校舎の保存活用を考える会：平成元、10・7。PM7。住吉町会館。富岡、豊山、木村の三講師が谷地頭小保存の意味、野沢村活性化の教訓、廃校の活用例について話をする。参加60名。
- (2) 青柳、住吉、谷地頭の自然、景観、歴史を探索会：平成元、11、3。AM9：30～12：30。函館公園に集合、青柳町(陶芸教室)ー住吉浜ー立待岬ー谷地ヶ森ー碧血碑ー谷地頭小のコースを加盟団体(野鳥の会、植物研究会、谷地頭小同窓会など)の説明を聞きながら散策する。参加80名。
- (3) 谷地頭小校舎保存か取壊しかを考える会：平成元、11、14。PM7。谷地頭町会館。12月定例市議会に向けて地元とのコンセンサスを得るために行われた。講師は富岡、豊山、木村。参加35名。
- (4) 講演会「近代建築の保存をめぐる」：北大助教授越野 武(建築史)先生、平成2、1、27。PM6：30。カクタスホール。近代建築の文化財指定の経緯、戦前の小学校建築、スライドによる文化財の

紹介が行われた。「大正期の遺構をもつ谷地頭小の問題は函館だけでなく道レベルの問題でもある。校舎を懐しく思う心が保存の原点である。」など分りやすいお話は聴衆に強い感銘を与えた。参加45名。

2. 市議会、市教委との対応。

- (1) 市議会総務委員会との懇談会。平成元、8、25市議委員9名。すすめる会12名出席。陳情の主旨を説明する。
- (2) 第7回定例市議会：平成元、12、12～13。本会議で上谷市議、本間市議が谷地頭小の保存はすすめるべきであるとの質問演説を行う。15日の総務委員会で谷地頭小の件審議する。教委の答弁は「文化財でない。老朽化している。PTAとの約束で取壊して青少年育成の広場とする。」しかし、討議の結果継続審議となる。
- (3) 市教委とすすめる会との懇談会：平成2、1、19。市教委は3部長、3課長、すすめる会は13名出席する。各団体それぞれの立場で説明し最後に富岡代表より4月以降の防災対策としてガードマンの派遣、校舎検討委員会の設置などを要望する。

3. その他

- (1) 文化庁へ陳情し建造物課長吉田 靖主任調査官宮沢、長谷川の両氏と面談する。平成元、11、10。
- (2) 谷地頭小PTA前会長、現会長と懇談する。平成元、8、1。11、24。
- (3) 署名運動は9,123名分を提出する。平成元、12、11。

以上

# 事務局だより

- ☆ 9月19日 AM11:45~12:00 NHK函館放送局スタジオから「函館のまちなみ」発刊の紹介。10余年に亘る運動とう、北海道まちづくり功労者として北海道知事より表彰されることなどがテレビの電波にのりました。当会より工藤事務局長が出演しました。
- ☆ 9月28日~10月3日、第10回ふるさと写生公募展を実施、応募数は578点、会場は長崎屋展示会場、9月30日同会場で表彰式をしました。
- ☆ 10月4日 函館市長推薦により平成元年度北海道まちづくり功労者として当会が北海道知事より表彰されました。表彰式はポールスター札幌で行われ当会より田尻副会長が出席しました。式終了後第2回全道景観会議にも引き続き参加しました。
- ☆ 10月14日、地域文化の高揚推進のため企画された「みなみ北海道文化会議」に会長他会員多数が参加しました。会場は函館大学。
- ☆ 10月15日 「松前町の史跡を訪ねて」を実施、幸い天候に恵まれ北海道の城下町、松前の歴史を学び、郷土資料館、城趾、神社、仏閣とうを見学大いに得るところがありました。時間の足りないのが残念でした。日曜日にもかかわらず松前町教育委員会文化財課長、若松堅太郎さんの懇切なご案内をいただき厚く御礼申し上げます。参加の皆さんご苦労さまでした。
- ☆ 10月21日、北海道地理研究会(上磯高校 上野広幸先生担当)より出席要請があり工藤事務局長が函館西部地区歴史的景観条例の制定、歴風会の活動状況「函館のまちなみ」発刊などにつき話しました。
- ☆ 10月23日~27日、西部地区の町並み保全に係る法人組織の調査につき函館市長より先進地区への視察派遣の依頼があり浜島会長が参加しました。視察地は長野県南木曾町の妻籠と栃木県足利市です。後日その報告会も予定されています。
- ☆ 11月3日、青柳町、谷地頭町、住吉町の自然と歴史、町並み景観をたづねる催があり、会員多数参加。
- ☆ 11月17日、「函館のまちなみ」発刊と北海道まちづくり功労者受賞を祝う会を開催しました。昭和43年4月22日会発足以来、会員の皆様のご支援、市民、関係各機関のご理解と協力もいただき運動を続けてきた成果を喜んでます。当日、来賓・会員の出席をいただき懐旧談に花を咲かせました。なお、故川嶋龍司先生(奥様出席)。今田前会長に感謝状を贈りました。
- ☆ 12月30日 当会の元副会長であり何かとお世話になった橋本三郎先生が突然なくなられました。真にい

たましく残念です。1月7日告別式には会より弔電と御霊前をおくり、工藤事務局長、田尻副会長が弔問しました。

- ☆ 平成2年1月26日、=町並み基金をつくる音楽と語らいの夕べ=と題し恒例の新春チャリティーパーティーを五島軒本店で開催しました。実行委員長は赤城 泰先生、副実行委員長は季刊誌「兄弟」の事務局である越中谷浩子さん、総合司会は佐渡谷安津雄さんの進行で、にぎにぎしく行われました。歴風文化賞の発表、授与式のあと、1990年函館のイベント紹介、チャリティー商品の競売会あり、最後に教育大 佐々木茂先生の伴奏で石丸典子さんとMDの四方のすばらしい調べに250名の参加者一同堪能しました。毎回チャリティーへのご協力商社は次の通りです。(順不同)

- ・ 今井・函館西武・ホリタ・魚長食品・函館山ロープウェイ・イトーヨーカド・長崎屋・函館魚市場・五稜郭タワー・第一食品・さいか・サッポロウエシマコーヒー・文雅堂・カメラのたねざわ・太田比古象・おしゃれ館・ニューシヨップつしま・五島軒・かもめの水兵さん・平方亮三・割烹中井・テーオー・アトリエ異流・BAYはこだて・函館ビヤホール・株式会社オオタカ

チャリティー参加の皆さま、ご支援下さった方々へ改めて厚く御礼申し上げます。併せて正副委員長をお引き受けくださった赤城先生、越中谷さんには感謝のほかありません。実行委員の皆さんお疲れさまでした。

### =会費納入のお願い=

61・62年度未納の方、よろしくお願ひします。  
郵便振替一函館630  
又は、拓銀昭和通支店 026-293-407  
宛先は、函館の歴史的風土を守る会  
住所は、千代台町20-18

### ◆編集後記

ご多忙のところ玉稿お寄せくださった方々へ先づ深謝申しあげます。編集人は本来、皆さまから頂いた原稿を以って紙面づくりをするのが常道ですが、今回一頁目に自分の記事と写真まで余儀なくのせなければならなくなりました。ご容赦下さい。本年もよろしく。

田尻